

中学1年 理科休校中の宿題 No.6 < 根・葉のつくりと植物の分類 >

生命編 第2章 根・葉のつくり

被子植物は、普段見えない地中の根や、太陽に向かっておいしげる葉のつくりに違いがあります。教科書のP27～P28、P32を参考に学習しましょう。

タンポポとスズメノカタビラの根

- タンポポの根は、Aのような太い根を中心に枝分かれして、Bのような細い根が横に広がっている。

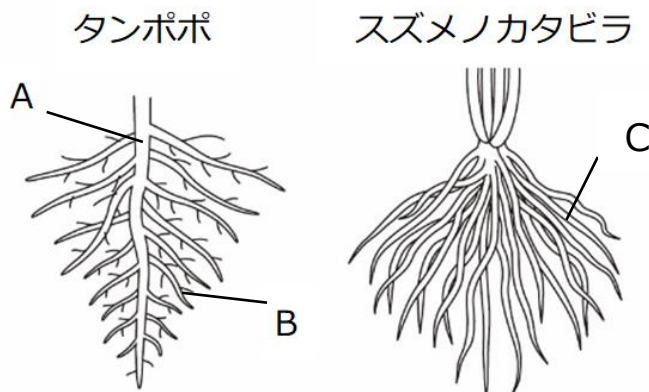
Aは（ ）といい、Bは（ ）という。

- スズメノカタビラの根は、Cのように太い根がなく、多数の細い根が広がっている。

このような根を（ ）という。

- 根の先端を観察すると、小さな毛のようなものが多く生えていることがわかる。これを**根毛**という。

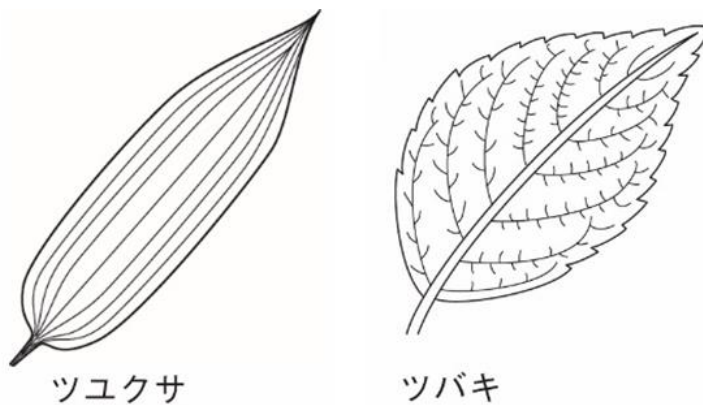
※根毛は、土と根がふれる部分を多くするはたらきがあるよ。(何のためだろう?)



ツユクサとツバキの葉

- 葉は全体にわたるような、すじが広がっている。このすじを（ ）という。

- ツユクサのように、すじが平行に並んでいるものを、（ ）といい、ツバキ



のように、すじが網目のように広がっているものを（ ）という。

※余談ですが、この学習のあと、『網』という字を『綱』と書いたり、大綱中を大綱中と書いたりしてしまう人が現れます。気を付けましょう。

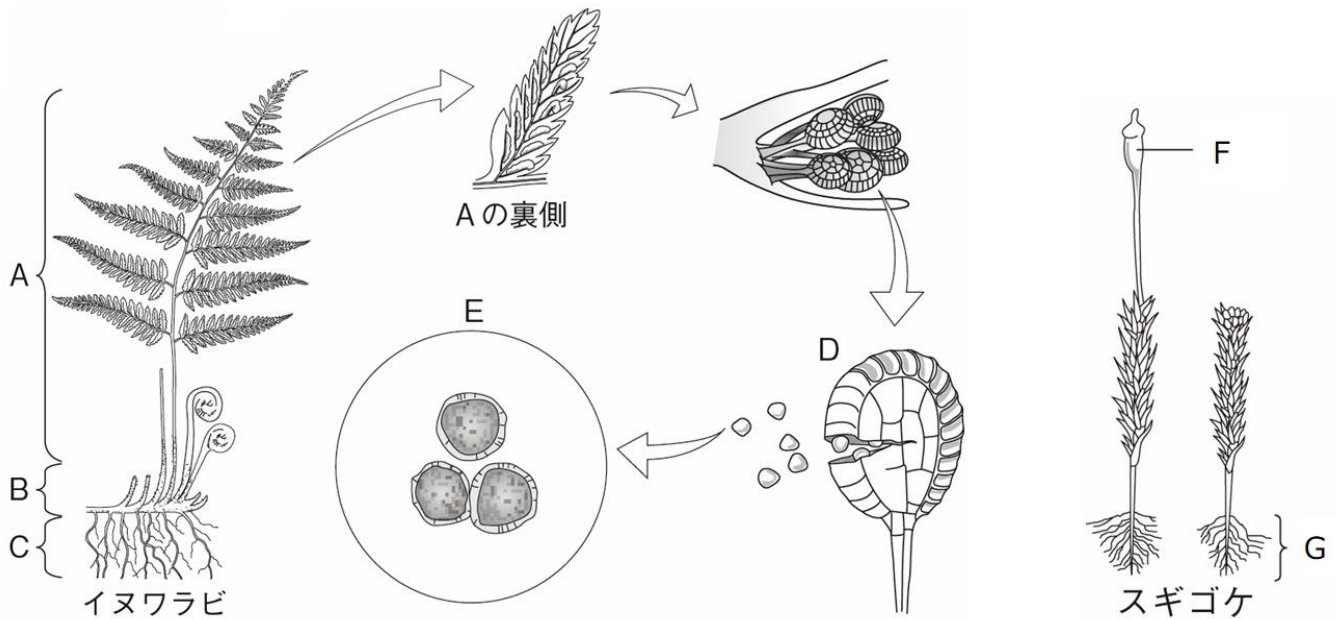
種子をつくる植物のなかま

教科書のP47～P48を参考に学習しましょう。

- 被子植物の中でも、スズメノカタビラやツユクサのように、葉脈が平行脈で、ひげ根をもち、芽生えたときの子葉が1枚のなかまを、（ ）という。またタンポポやツバキのように、葉脈が網状脈で、主根と側根をもち、芽生えたときの子葉が2枚のなかまを、（ ）という。

- 双子葉類でも、花弁が1枚にくっついているなかまを、() とい
いい、花弁が1枚1枚離れているなかまを、() という。

種子をつくらない植物 教科書のP49~P51を参考に学習しましょう。



- イヌワラビは()植物のなかまで、Aが葉、Bが茎、Cが根の部分とな
っている。
- Aの裏側には、Dのような()という袋があり、そこでEの胞
子がつくられている。
- スギゴケは()植物のなかまで、Fが()で、Gが
()というつくりをしている。

※スギゴケやゼニゴケなどには、雌株と雄株があり、胞子は、雌株の胞子のう
にできる。

※この他にも、コンブやワカメといった海藻にもなかまわけの名称がありま
す。何類というでしょう？ (答えはP53)

~考えてみよう~

ここまでの学習をまとめると、植物の仲間を特徴ごとに、簡単に分けることができ
るようになっているはず。マイノートのP7を使って、自分で仲間わけまとめを
つくってみましょう。難しい人はP73の答えを見て、考えながらまとめてみましょ
う。また、教科書に例で載っている植物の名称も、分類しながら覚えられると良いで
す、頑張ってくださいね^^